

第 74 回 KTSM 実技セミナー in 奈良 開催報告



開催日時：平成 30 年 11 月 3 日（土）12 時 20 分～16 時 10 分

開催場所：奈良県病院協会看護専門学校

奈良県橿原市大久保町 454-10

主催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

共催：医療法人医真会 植田医院

開催目的

高齢化が進み、複数の原因による摂食嚥下障害を有する高齢者が多い中「口から食べる」重要性は広まりつつある。しかし、適切な評価、介入がされないまま経口摂取を禁止されている患者も少なくない。昨今、スキル不足などにより、食べる支援が充分になされていない現状があり、患者家族からの訴えも多く、社会の関心が高まってきている。今回、早期経口摂取開始に向けたベツトサイドスクリーニング評価安全・自立を目指した食事介助技術など、包括的スキルを習得することで、地域の食べる支援の充実をはかることを目的とする。また将来、食べる支援への取り組みが広がり、食べたいと願う患者、食べさせたいと願う家族の思いがかなえられる地域を目指す。

講師・アドバイザー一覧<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 （神奈川）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長	看護師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士） KTSM 実技認定者
竹市 美加 （大阪）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 副理事 訪問看護ステーションたべる	看護師（摂食嚥下看護認定看護師） KTSM 実技認定者
一瀬 浩隆 （愛知）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事 あい訪問歯科クリニック	歯科医師（日本摂食嚥下リハビリテーション学 会認定士） KTSM 実技認定者
高橋 瑞保 （青森）	はちのへファミリークリニック	管理栄養士（日本摂食嚥下リハビリテーション 学会認定士） KTSM 実技認定者

アンケート集計結果（参加者：48名 回答率：100%）

Q1 参加者の職種と勤務先の都道府県

勤務先都道府県	人
奈良	32
大阪	5
三重	2
徳島	2
京都府	1
和歌山	1
愛知	1
神奈川	1
なし	2
無回答	1
総計	48

Q2 KTSM 実技セミナーへの参加回数

参加回数：1回（45人）、2回以上（2人）、無回答（1人）

参加理由	人
スキルアップ	21
興味があった	3
指導に活かす	3
小山先生	2
KTBC	1
その他	11
無回答	7
総計	48

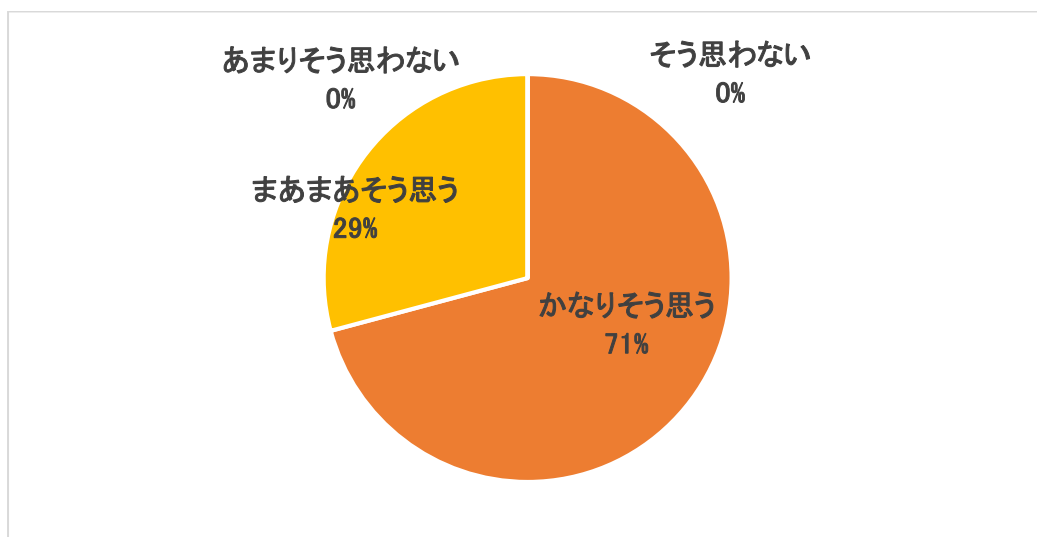
（参加理由）

案内があり、興味が有り必要と思ったので
今まで教科書だけで学び、実際の現場で難しい患者さんと出会い、実技が必要（スキル）と感じたから
安楽な状態で食事介助が出来るよう学びたかった
院内（及び地域へ）での食スキルの向上を多職種で取り組みを進めるため

介助者の指導の助言ができれば、又は自分が介助する時にまちがった介助をしないため
開催地が職場であり、嚥下に対して知識を強化して教育に生かしたいため
家族（主人）の介護のため
看護学生への指導のため
看護師として働くなかで食事を患者さんがおいしく安全にとって頂くことはとても大切だと思ってきました。摂食えん下には以前からとても関心があり、知識と技術を身につけたいと思いました。
勤務先のデイケアで利用者様が楽しく安全に食事ができる様、知識と技術向上の為に参加させて頂きました
勤務の中で食べることを希望される家族がいたが、上手くアセスメントできず悩んでいた為
口から食べる事の本当の意味でのすばらしさ、またきちんとした知識・技術を身に付けたかった為
具体的な食事介助の方法を知りたかったため
なかなか現場に落とし込めない、現場にいると感覚がおかしくなるので、自己啓発の為に参加している
小山先生の学びを直接受講したかったから
在宅で誤嚥性肺炎のケースが多く、トロミ剤や食事形態の指導することが多いので、勉強したかったからです。
在宅患者の病状の進行を、二次的な要素で早めないよう予防・対策を広く知識として持ちたいと思い参加させて頂きました。QOL との両立から「食べる」の大切さを感じていることも大きな動機となりました。
事業所にて最期まで食べて過ごすことを目指しているため
自身のスキルアップのため申し込みました
実践に活かす為
自分のスキルアップの為
デイサービスで食事介助をしており、食事を今以上に楽しんで頂けるよう自身のスキルアップのため参加しました。小山氏のセミナーに大変興味がありました。この機会に感謝します。
職場からすすめられて
職場の研修
食事摂取できていない方達の中に一人でも摂取できる様に地域でやりたい。
摂食嚥下に関する資格を2つ持ってはいるが、実技形式の講習は受けた事がなかったため。在宅訪問栄養を将来的にしたいと思っており、その時にポジショニング等出来るようになっていないといけないと思ったため。
3年前に父を在宅で看取ったが、食事介助のスキルがなく後悔していた。現在は母を介護しており、食事介助に関して看護師さんに聞いても、あまり納得する回答を得られないでいた。今回、小山先生の御本を図書館で目にし、是非習ってみたいと応募しました。
デイケア OT として職場の食事介助や利用者様の食事に関する希望をどのようにサポートできるか知りたかったので、参加希望しました。
認知症の主人ですが、何とか自分で普通食をたべられるようにしてやりたい

母が入院前は食べれていたが、退院後認知から食事が取れないとのことでしたが食べさせることをしたい
発熱→入院・誤嚥性肺炎→絶食、胃ろう造設 or 胃ろう拒否、ADL 低下寝たきり状態→在宅・訪問看護導入の流れで在宅に帰られる利用者、介護者の QOL 支援の中心が「口からの食事する」ことにあると思い、アセスメント能力と様々な職種や介護者に安全に食介の技術を身につけたいと思いました。
日頃高齢者の方々のケアをする中で、食事介助の技術を身につけたく参加しました
KTSM を広げ理解を深めるため。スキルをアップするため。
NHK プロフェッショナルの放送から当院 SST チームで KT バランスチャートを使用していた。効果的に正しく使うために学習を深めようと思った。
訪問看護師として働いているが、利用者さんの食事内容や食べる姿を実際に見る事がほとんどなく、実感する事もなかったため、少しでも具体的に勉強したかった。
訪問で口腔ケアを行なっているが、摂食えん下に興味があり、今後行いたかったので勉強したかった。
スキルを身につけるため
見よう見まねで食事介助をしているが理論的な裏付けをしたい。
もっと理解を深めたかったから。食介助のスキルを身に付けたかったから。

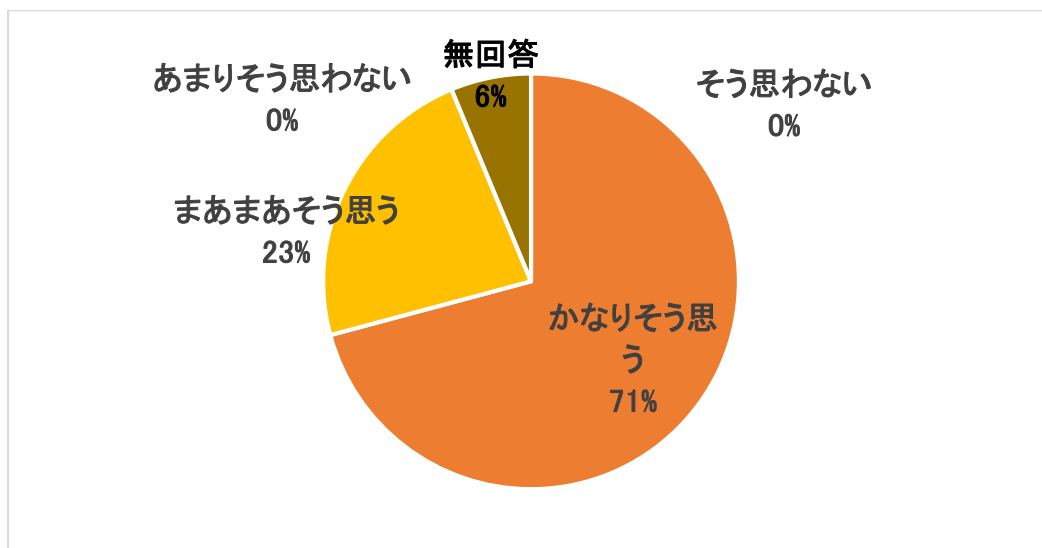
Q3 本日の実践セミナーの内容は、ご自身の口から食べる技術に関するスキルアップにつながったと思いますか？



今までまちがっていた考えがわかった
マンツーマンで教えてもらう事で細かい気づきが出来た
介助される利用者の気持ちがよくわかった。ポジショニングの重要性を再確認できた。
介助される側の立場になれたのでわかりやすく良かったです

基本的なこと、大切なこと、ポイントをまず知れて良かったです。1つ1つおさえながら援助につなげていきたいです。
経験上で感じていたことを、理由付けが明確になり自信をもてた。どうしていいか思い悩んでいたことに解決を得られた。
細かな所が勉強になった
ベッド姿勢や補助（クッションなど）仕方は勉強になった
姿勢や介助方法、食事形態など間違っていた点も多く、とても勉強になりました。
実際に患者さんの立場になって感じる事ができたので、大変良かったです
実施する、される、を体験できました。
自分が行なっていることが正しいのか気になっており、今回のセミナーで自信がついた。
食事介助（スプーンの運び方）、ポジショニングについて、明日から活用したい
食事介助のスピードや徒手の介助方法など、教科書でイメージしづらい部分も詳しく教えて頂きました
食べやすくするための方法や注意点がわかった
食べる、のみこむ、の今まであたり前にしていたことに気がつきました
食べる意欲をひき上げる、技術、認知力を察知し、必要な補助技術を（ひき出し）を持つことができる
第一に姿勢が大切ということを感じました。
食べさせてもらう経験がいき、気持ちがわかったように思います
まず初めに食べることに関しこまかくアセスメントし、なぜそうなるのかを学んだ。
初めての参加なので学習を重ねたい
初めて参加させて頂いたが、自分達のケアは間違っている事が多かった事に気付かされた
肘！と左手の場所ですね
勉強と実践を重ねる必要はある
勉強になりました。スプーンの使い方のむつかしさがわかりました。
本だけではわからなかった部分を実際にやってみて、とてもよく分かった。
毎回、自分の足りないところに気付かされます
短い時間だからしょうがないが、回数をこなさないと習得は難しいと思った。知らなかったことがほとんどであったため、実技セミナーを受けれてよかった。

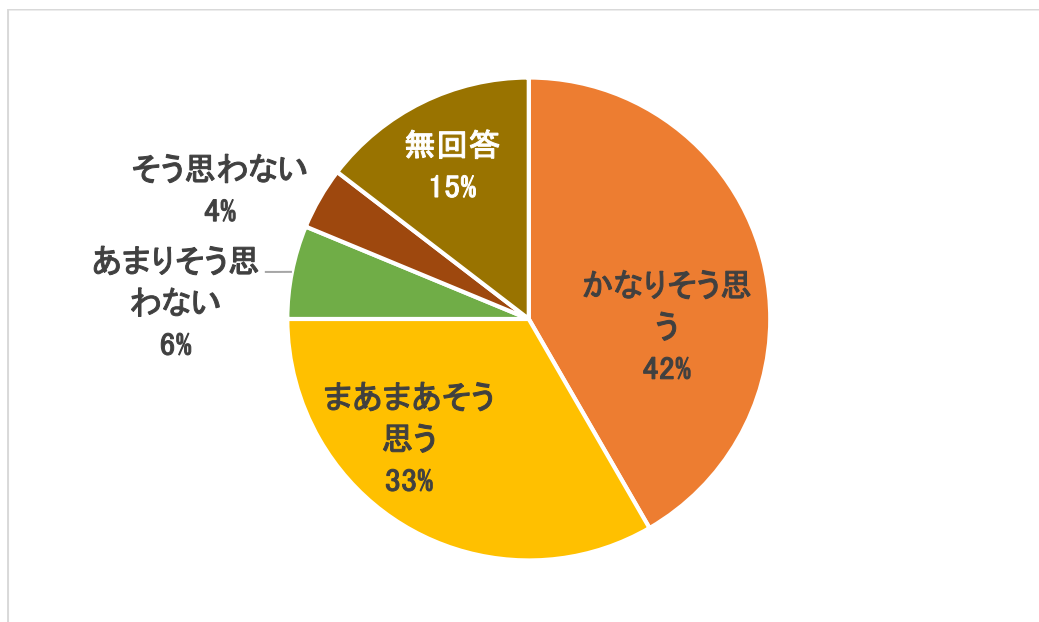
Q4 本日の実践セミナーの内容は、今後の実践の場面で活用することが出来ると思いますか？



<p>デイケアでは重度の方はおられません、食事介助が無い訳ではないので、今後どんな方が来られてもその方の「食べる」を守る為引き続き勉強していきます。</p>
<p>ポジショニング、スプーンの入れ方などの実技、講義で得られた知識について</p>
<p>嚥下障害のある患者の食事介助</p>
<p>嚥下困難な高齢者を介護する家族にアドバイスをしていきたいです。</p>
<p>胃ろう、鼻腔の方、食事形態をレベルダウンすることなく（させてしまった）、また全介助ではなく自力摂取まで回復のみこみがあるような方（回復をさまたげている）（こちら側でそうさせてしまっている方が多い）</p>
<p>親が食事介助しなければならなくなった時や家族</p>
<p>ベッドの角度、姿勢の位置で食べやすさを勉強になりました。</p>
<p>患者さんの姿勢をまずととのえる、環境をつくるといったことはすぐに活用できそうです。</p>
<p>介護の仕事の現場ではあまり実践できるかはわかりませんが、家族がそういう状態になった時などは、いいと思いました。</p>
<p>介助する時に活用できると思いました</p>
<p>介助方法、ポジショニング方法</p>
<p>患者宅で家族に指導ができる</p>
<p>患者さまのご家族へ向けて、安全な食事介助方法をしっかり理論的に説明できると感じた</p>
<p>キザミ食はよくないと知りました。勉強になりました。</p>
<p>居宅での食事介助をしているので、食べやすいようなポジショニングのとり方が出来ると思います。</p>
<p>現場で誤嚥が問題になっているケースに具体的に介入できそう</p>
<p>現在、母はまだ普通食え自分で食べることもできるが、今後、食べにくくなる可能性が高い。その時にかなり役立つと思う。</p>

現在、要介護5の方の食事介助を行なっています。本日学んだことを生かせると思います。
現場ですぐに活用できそうです。ご自宅で介助されるご家族へお伝えしたり、食事介助のNSさんなど。
誤嚥性肺炎で治療中の患者さんは沢山おられるので、今日のセミナーを受けながら「あの患者さんに活用しよう」等考えていました。
誤嚥性肺炎の方への治療ケアが変わる
在宅・施設への指導のエビデンス、具体的方法を示せる
在宅でアドバイスを行うための知識が増えた
在宅医療の現場、地域の多職種の方々へ feedback したい
在宅訪問栄養で、病棟の食事介助で
在宅における嚥下評価。食事介助の指導の場面。
早速、今日の夜から食事介助で実施します
施設での食事介助、在宅での食事介助の場面で活用できると思います
施設全体の意識改革がむずかしい。もっとこの研修の参加機会（職種）を増やしてほしい。
シーティング、ポジショニングや姿勢をつくるためにどのような訓練をするべきか考えるのに活用します。
まず姿勢を整える方法がしっかり体験出来ました。何に注意して「食べる」ことが必要かも学びました。
スクリーニングテストの実施、食事介助
実際に食事の介助に関わる時間がなので2にしました
食事介助の機会が多いのでその時に活用したい
食事介助やポジショニングに関しては、現場に落とせることもあるが、医者やナースの食への取り組みや考え方が難しい
食事介助をしています、新しい発見がいっぱいあった
食事介助（タイミング）や食事の時の姿勢（補正）など具体的に理解できました。時間が少なかったので少し自信がありませんが、しっかり実践していければと思います。
摂食・えん下に対し困っている利用者が多い為、活用できると思う
絶食と病院で言われ、胃ろう造設も NG チューブあるいは絶食のままで帰って来ている（退院させられるた）利用者（高齢者）はたくさんおられ悩んでいる。支援者も介護者も地域にはたくさんおられる。KT バランスチャートがあり情報の共有かできる。
認知があるのでどこまで食べてもらえるか、私自身ひとりで食事形態やステップアップの段階の上げ方が不安
スプーンをはこぶ角度とか口のどの辺にいれるかという事がしてもらった側の経験をしてよくわかった
訪問している利用者さん、退院される方、多職種との場での話し合いができそう

Q5 本日の実践セミナーのような研修をご自身の病院、施設、地域で自ら企画して行おうと思いませんか？



医師、訪問看護師、ケアマネ、栄養士などの多職種に広げたい。高齢看護師、PT、OT、ST。奈良での啓発講演会。
まずは同じHPのスタッフに広めていきたいです。
企画したいが、複数回受講してから
今日がはじめての受講でわからない事もいっぱいあるなかで、なるほどと思ったことは、いっぱいありました。
すべてのスタッフに共通の意識として必須と思います。
STさんと現在相談中です。引き続きご指導いただければと存じます。
まだ研修を1回しか受けておらず、又、まだまだ知識もそうですが実践不足の為
在宅で継続していくことで、健康レベルを底上げできる
堺市で研修を行ってほしい。そして広めてほしい。訪問で来て下さる看護師やSTに相談もしたいです。
時間配慮の確保が難しい
実習病院に知ってもらいたい。今日のように多職種、ご家族も含めた研修の方が効果的だと思った。
実技セミナーを定期的に毎年開催できれば…
自分が自信を持って全て出来るようになれば、したいと思う。
さらに自分の理解を深めてから行いたい
自分のスキルアップ行った後にしたいと思います。
自分で全てうまく伝達できないので、スタッフ全員で研修できればいいと思います。
ベッド上の食事介助のポジショニングで、ヒジを上げる、車イスの補正

住友病院の NST の一員ですので、NST 主催の勉強会で KTSM に来てもらいたいです。
食べることにに関して食べ物形状や口腔内の状態ばかりに目が向けられていましたが、それだけではなく姿勢や角度など全体を見ていく必要があると学んだ。わかっているもどうすればいいかは理解していないことが多いため摂取時の姿勢などを伝えていきたい。実演することで学べた。
地域で行なってみたい
地域で困っている人にサポートしたい
地域でとり組んでいけたらいい。病院の考え方が、実践を通して変化できたらいいと思う。
地域で多職種の集まる勉強会で実施すれば、地域全体の介護力がアップすると思う
出来れば良いなあと思いますが、日々の業務で忙しく、なかなかできない状況です。
何度も受けたいと思う。一度の研修では情報を伝えられない。施設職員（介護、栄養士、歯科衛生士、OT、PT、NS 等）かかわる職種皆が受講すればよい
自らが難しいため
自ら企画となると、まだまだ勉強不足ですので実際はわかりません
元々知識の薄い人に何をポイントにして伝えるかを伝える。実技として体験をしてもらいたいが、これはまだ指導をうけて行かなければ不十分な気がします。
私は現在母の介護で勤めていませんが、周りに安易に胃ろうにながれてしまう人が多く感じています。地域でこのようなセミナーを開催したいなあと思っています。

Q6 「口から食べる」ことに関する内容で、今後の実践セミナーで取り上げてもらいたい内容があればご記入ください。

セミナー希望内容	人
KTBC	3
口腔ケア	2
嚥下食	2
その他	7
無回答	34
総計	48

今はムース食しか食べられませんが、これから普通食へと段階をあげていく方法を是非学びたい。近畿、東海地区での実技講習があれば参加したいと思います。
ポジショニングや介助動作等の DVD があれば反復練習しやすい様に思います。
KTBC の各項目のアセスメント、段階 UP の具体的な介入方法

ターミナル期において食べること
口腔ケアについて学びたい。Web 学習など動画で学べるシステムを構築してほしい。
13 項目一つ一つの実践力を身につけたい
今回口腔ケアが学べなかったので、次回はおこなってほしい。
やわらか食について、あいーと、そふまる等見た目からくる食の楽しみについて
全てが初めてで目からうるこの状態です。基本からもっと詳しく教えていただきたい。
摂食えん下できるまでの訓練について
調理も大切そう
奈良にまた来て下さい
ストロー、吸い飲み、コップなどを使うやり方
KT バランスチャートから 1 問題を提起して支援方法を具体的にチームで考える、実践セミナー

Q7 実技認定審査を受けることを希望しますか？

希望する（9 人）、希望しない（25 人）、無回答（14 人）

☆実技セミナーの様子☆

<全体講義>

セミナーのはじめは、小山先生による「口から食べる包括的スキル」の講義。



<演習>

①ベッドサイドスクリーニング評価

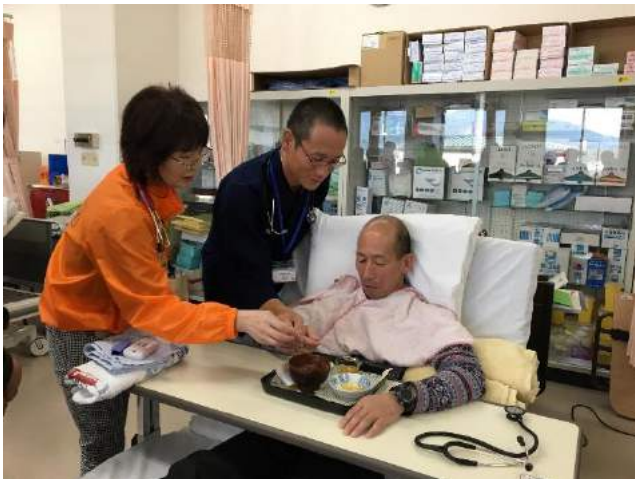
ベッドサイドスクリーニング評価では、液体やゼリーでの評価方法だけでなく、頸部聴診法、基本



③セルフケア能力を高めるための食事介助

④車椅子での基本姿勢、セルフケア能力を高めるための食事介助

全介助や一部介助での食事介助方法を学びました。五感を使用した食物認知の高め方、リクライニング角度により食事の環境や形態を調整する、車椅子でのシーティングや食事環境設定など介助から自力摂取につながる介助方法などを体験していただきました。



第 74 回奈良実技セミナーに参加して下さった受講生の皆様、セミナーの準備から運営までご協力いただいた植田医院の皆様、会場の提供とセミナーのサポートをしてくださいました奈良県病院協会看護専門学校先生方、本当にありがとうございました！

明日から即実践できる！人に伝えたい！KTSMの実技セミナー！

地域から「食べる輪」を広げていきましょう！！



皆様、ご参加いただきありがとうございました！